

東海第二発電所
保守管理に関する方針書

平成 29 年 11 月

日本原子力発電株式会社

東海第二発電所の延長しようとする期間における原子炉その他の設備についての保守管理に関する方針^{※1}（以下、「保守管理に関する方針」という）については、下記表のとおりとする。

No.	保守管理に関する方針	実施時期 ^{※2}
1	原子炉圧力容器胴の中性子照射脆化については、今後の原子炉の運転時間・中性子照射量を勘案して適切な時期に第5回監視試験を実施する。	中長期
2	<p>低圧ケーブル及び同軸ケーブルの絶縁特性低下については、電気学会推奨案[*]及びACAガイド^{**}に従った長期健全性評価結果から得られた評価期間に至る前に取替を実施する。</p> <p>[*]：「原子力発電所電線ケーブルの環境試験方法ならびに耐延焼性試験方法に関する推奨案（電気学会技術報告 第Ⅱ-139号 1982年11月）」</p> <p>^{**}：原子力安全基盤機構「原子力発電所のケーブル経年劣化評価ガイド JNES-RE-2013-2049」</p>	長期
3	<p>同軸コネクタ接続の絶縁特性低下については、IEEE 323^{***}に従った長期健全性評価結果から得られた評価期間に至る前に取替を実施する。</p> <p>^{***}：IEEE Std. 323-1974「IEEE Standard for Qualifying Class 1E Equipment for Nuclear Power Generating Stations」</p>	中長期
4	疲労評価における実績過渡回数の確認を継続的に実施し、運転開始後60年時点の推定過渡回数を上回らないことを確認する。	長期

※1：No. 4については、平成23年3月から平成32年8月まで冷温停止状態が維持されることを前提としている。

※2：実施時期については、平成30年11月28日からの5年間を「短期」、平成30年11月28日からの10年間を「中長期」、平成30年11月28日からの20年間を「長期」とする。